

研修で
学校が
変わる

道徳教育推進教師研修 (全) まとめ

令和2年7月14日 (火)

Web会議による遠隔講義



「子どもの評価の考え方を生かした 道徳科の授業づくり」

講師 浅見 哲也 氏 (文部科学省 教科調査官)

【研修のねらい】

■指導に活かされる評価を大切にした「特別の教科 道徳」の授業づくりについて理解する。

道徳教育の道徳科

道徳教育

共通の目標

よりよく生きるための基礎となる道徳性を養う

善悪の判断

善を行うことを喜び
悪を憎む感情

道徳科

道徳的価値を実現
しようとする意志

道徳的な判断力・心情
実践意欲・態度

擬態的な道徳的行為
への身構え

道徳科の評価の基本的態度

道徳性を養うことがねらい → 道徳性を評価するのではない
子どもたちが学んでいる姿を継続的に見取って、
一定の期間の中で評価する

学習状況や成長の様子を評価する

成長を受け止めて認め、励ます個人内評価、数値ではない

教師はねらいを設定し授業に臨むが、そのねらいをゴールとした評価を行わない

授業の中で評価することは困難

児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか
道徳的な価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

自己の(人間としての)生き方について考えを深める

道徳的諸価値を理解する

→ 3つをもって授業を進める

(1) 価値理解

人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

(2) 人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

(3) 他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

評価の考え方を生かした 道徳科の授業の質的転換

道徳科における

主体的・対話的で深い学び
「考え、議論する道徳」

- 問題意識をもつ
- 自分との関わりで考える
- 多角的・多面的に考える
- 自らを振り返る
- 自己の(人間としての)生き方について考えを深める

長期的な展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ道徳的実践につなげていくこと

道徳科の授業構想

教材

内容項目

児童生徒
の実態

実態によって授業
のねらいや展開が
変わる

道徳教育推進教師に期待すること

学校独自の道徳教育を分かりやすく推進するためのカリキュラム・マネジメント

学校教育目標 → 育てたい子ども像

目標設定 → 計画立案

共通理解・共通実践

【受講者のプラン・・・私はこの学びをこう活かす】～部分抜粋～

- 道徳科ばかりに気をとられていて、教育活動全体で道徳教育をするところまで意識がなかなかいってなかった。道徳教育推進教師として学校全体を見わたしながら、職員と道徳的価値を共通理解して、全校の児童の様子や取り組みを通して道徳教育を推進していきたい。
- 校内研修等で、道徳科の評価のとらえ方を伝え、日々の道徳科の評価に役立てていきたいと思う。また、毎週の道徳科の授業を構想するにあたって、ねらいに対する児童の実態を踏まえながら授業を構成し、考え、議論する道徳になるように校内に広めていきたい。
- どの授業でもそうだが、授業を組み立てるにあたって大事なことは児童の実態であり、そこからねらいや発問の長所・短所について考えることが大切であること、また、児童が一番成長するのは、信頼できる先生に褒められることだということから、教師と児童の信頼関係を築くことの大切さを職員に伝えたいと思う。
- 考え議論する道徳とするために、児童の実態や何を考えさせ、どんな力をつけていきたいのか明確にして、授業をみんなで作りながら(模擬授業等)、評価のできる授業づくりをめざして学校全体の授業力向上を図っていきたい。